

## 家政科入学生の縫製技能について

池田 揚子\*・清水 房\*

近年入学する家政科希望学生の被服縫製技能が、以前の学生と比較して力不足を感ずることが多い。実技力というものは、各人の意識的な積み重ねの努力と訓練があつてこそつくものと思われる。

学生たちの既習縫製内容を知ることが先決と考え、製作教材名、基礎技術の習熟度、洋服のおもな部位の知識、裁断時の知識として必要なことのおもなものについてアンケート調査をおこなった。併せて、縫製に関係する実技テストの一部を実施し、10年前におこなったものと比較検討した。

調査結果を大学の被服教育のカリキュラム改善のための資料とすることを目的とした。

結果についてみると縫製教材数は、学校サイドで採用に差があるために個人的な差となっている。又、学校種別にも差があり、特に高校で陥没している。

基礎技術の習熟度は、低い結果であった。

縫製の基礎的知識の定着度は、教材によって異なり、裁断時の縫代の分量やつけ方については皆無に近い状態であった。

これらの結果を、重点的に指導する教材要素(精選)の足がかりとして、徹底させていく方針である。

学習の実態は、中学校に重点が置かれているようであるが、高校において中学から一貫した指導計画が考慮されることが望ましいと思われる。

### はじめに

昭和35年10月15日付告示の改訂学習指導要領によって、高校女子に家庭一般4単位が必修となり、昭和38年度の高校入学生から学年進行によって実施されるに伴い、本学を受験する家政科志望の学生に対し、昭和41年から10年間にわたり、実技及び実技に関する知識・理解の試験を実施した。その後10年を経過して、以前に入学した学生と比較し、被服縫製関係の知識・技術が低下してきて

いるように思われる。

大学における現状の被服関係のカリキュラムのままではよいのか、と疑問さえもたされる。いかなる縫製教材を組むことが望ましいかを検討することを目的に、今回は家政科入学生の既習縫製教材に重点をおき、小・中・高校の8年間にわたる学習の実態を知るためにアンケート調査をおこない、併せて10年前におこなった実技テストの一部を実施して、考察をすすめることにした。

\* 岩手大学教育学部

## 1. 調査の概要

調査は、小・中・高校での製作経験や、実技に伴う知識・理解に関係したアンケート調査と、10年前におこなった方法で、縫製に関する実技テストの一部を実施し比較検討を試みた。

### A) アンケート調査について

調査期日・場所：昭和57年4月20日、教官立ち合いのもとに被服教室でおこなった。

調査対象：被服概論受講の1年次学生、13名。

アンケートの内容：学習指導ならびに被服縫製上必要と思われる項目(1)~(6)に記述する。

具体的には表1<sup>1)</sup>として示すが、注記1)に述べる論文の調査項目を参考にした。

- (1) 小・中・高校で学習した製作教材。
- (2) 縫製の基礎技術：運針のできた時期と現在の習熟度。
- (3) 縫製の基礎技術：ミシン縫いのできた時期と現在の習熟度。
- (4) 縫製の基礎知識、数種の布に対するミシン針とミシン用縫糸の関係について。
- (5) 洋服の部位名称について。
- (6) 裁断に関する知識について。

第1表 アンケート調査項目

(学生証番号 氏名 )

これから大学において被服構成学を学習するための資料としますので、次の間に答えて下さい。

### I あなたがこれまでに小・中・高校で学習した縫製教材についてお尋ねします。

- ・実習教材について、製作したものに※印をつけて下さい。
  - ・自分の力で100%やったものは ◎
  - "      75%位やったものには ○
  - "      50%位      "      □
  - "      25%位      "      △
  - 全部やってもらったものには ×
- } をつけて下さい。
- ・手伝ってもらった人は、誰に手伝ってもらったかも記入して下さい。

	製作した	自分で%	学習教材名	製作した	自分で%	学習教材名	製作した	自分で%	学習教材名	製作した	自分で%	学習教材名
小学校			のれん ふくろ 台ふき又は雑巾			エプロン カバー類 ボタン・スナップつけ			ほころびなおしや つきあて			その他( )
中学校			ブラウス(袖あり) ブラウス(袖なし)			スカート(裏なし) ワンピース(裏なし)			パジャマ ゆかた			その他( )
高校			スカート( ) ブラウス( ) ワンピース( ) ベスト			スラックス ジャンパースカート ジャケット 女児服			大裁女物単衣長着 大裁男物単衣長着			その他( )

( )は該当するものを記入して下さい。

### II 運針について

1. あなたは指貫を用いて運針ができますか。該当するところに○をして下さい。

	自由ができる	かなり自由ができる	まあまあである	少ししかできない	全くできない
--	--------	-----------	---------	----------	--------

2. 運針はいつごろからできるようになりましたか。該当するところに○をして下さい。

小学校		5年		6年		その他( )
中学校		1年		2年		3年
高校		1年		2年		3年

### Ⅲ ミシンについて

1. ミシンは使えますか。該当するところに○をして下さい。

<input type="checkbox"/>	上手に使える	<input type="checkbox"/>	かなり使える	<input type="checkbox"/>	まあまあ使える	<input type="checkbox"/>	少ししかできない	<input type="checkbox"/>	全く使えない
--------------------------	--------	--------------------------	--------	--------------------------	---------	--------------------------	----------	--------------------------	--------

2. ミシンはいつ頃から使えるようになりましたか。該当するところに○をして下さい。

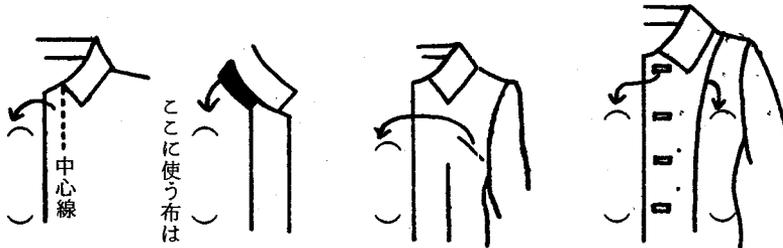
小学校		5年		6年		その他( )
中学校		1年		2年		3年
高校		1年		2年		3年

Ⅳ 次の4種の布にミシン縫いをするための適当な糸や針を記入しなさい。

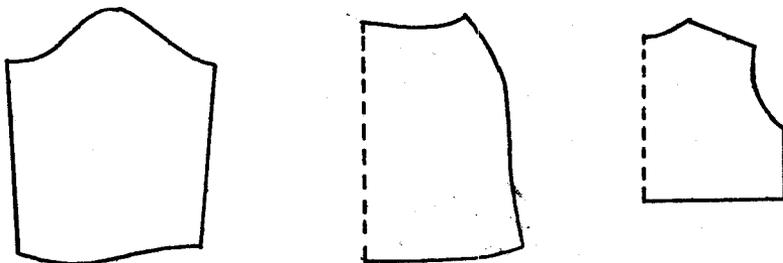
布	糸	針
ブロード(綿薄手)		
ネル(綿100%)		
サージ(毛100%)		
デニム(綿・ポリエステル交織)		

### Ⅴ 洋服について

1. 次の図の名称を書いて下さい。



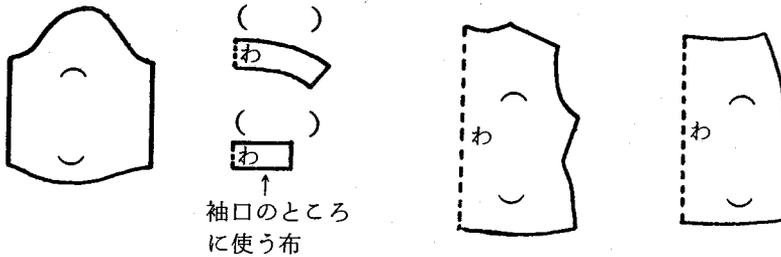
2. 次の図中に袖丈・袖山の高さ、腰丈・ヒップの位置、 $\frac{1}{2}$ 背肩幅を記入して下さい。



## VI 裁断について

次の型紙を用いて布を裁断したいと思います。

- 布目方向を矢印で記入しなさい。( ) 内に何の型紙か名称を記入しなさい。
- それぞれ適当な縫代をつけて下さい。寸法も記入すること。



### B) 縫製に関する実技テスト

実技テストの期日：昭和57年4月27日。

場所、対象者はアンケート調査と同じである。

実技テストの内容は二つであり、つぎに述べるとおりである。

所要時間：50分間。

<実技テスト問題>

1. 配布した材料※を使って左脇にファスナー明きを作る実習をしなさい。

次の条件をすべて取り入れること。

1) 縫代の端は裁目がかりをすること。

2) ファスナーは後側を本返し縫いでつけ、前側を半返し縫いでつけること。

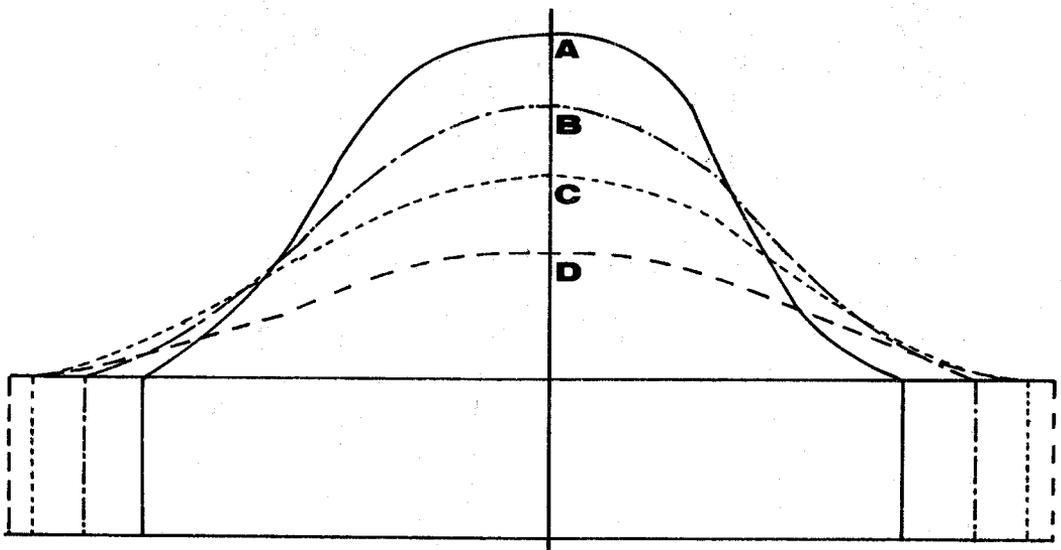
3) ファスナーの端は縫代に千鳥がけすること。

※ 配布の材料

- 土台布（シャークスキン、24×11cm、2枚）。
- ファスナー、10cm長さのもの1個。
- 縫製用具：針（3の1、3の2、3の5の縫針各体と洋裁用待針5本）。糸（もめん用手縫い糸の赤）糸切りばさみ、角へら、各1個。

2. 日常着に最も適した袖の型紙を下図より選んで、切りとり、その型紙を用いて布を裁ち、袖つけの仮縫いをしなさい。

（袖口は裁目のままでよい。なお、この型紙には縫いしろは含まれていない）



第1図 袖の実物大の型紙（印刷の関係で $\frac{1}{2}$ 縮尺としてある）

配布の材料

- 袖の実物大の型紙。
- 袖を裁つ用布（サラシ金巾25cm×45cm）。
- 脇と肩を縫い合わせてある身頃。
- 縫製用具（前述のもの）。

2. 調査結果と考察

A) アンケート調査

アンケート調査の結果を縫製教材名、縫製の基礎技術、縫製の基礎知識に分け表2の1, 2, 3, として示す。

第2表-1 既習縫製教材名の対象者一覧

学校種別	学習教材	対象者													教材校	割合(%)
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M		
小学校	のれん	◎	◎		◎	◎									4	30.8
	ふくろ	◎	◎		◎	◎									12	92.3
	カバー類	◎		◎			◎	◎				◎	◎	◎	7	53.9
	エプロン	◎													1	7.7
	台ふき又は雑巾	◎		◎					◎			◎	◎	◎	6	46.1
	ボタン・スナップつけ	◎		◎		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	9	62.2
	ほころびなおしやつぎあて	◎		◎		◎						◎			4	30.8
計	◎	1 6	2	5	2	4	3	1	1	2	2	5	3	2	平均	3.3点
中学校	袖つけブラウス		◎			◎				◎		◎	◎		5	38.4
	袖なしブラウス	◎		◎	◎			◎			◎		◎	◎	6	46.1
	スカート	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	11	84.6
	パジャマ	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	12	92.3
	ワンピース	◎		◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	6	46.1
	計	◎	1 3	3	2	3	3	3	2	2	1	2	3	4	2	平均
高校	スカート	◎	◎	◎	◎			◎		◎				◎	8	61.5
	和服長着						◎		◎					◎	3	23.0
計	◎	1						1		1				1	平均	0.8点
合計	◎	3		1		1		4	1	2				5	平均	7.2点
	◎	9	6	8	6	7	7	3	4	3	5	8	7	4		
		12	6	9	6	8	7	7	5	5	5	8	7	9		

第2表-2 縫製基礎技術の習熟度一覧

内容	対象者	対象者													平均	標準偏差
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M		
自己評価	運針	2	3	3	3	2	3	1	2	3	3	3	2	1	2.4	0.7
	ミシン縫	3	3	4	3	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3.2	0.4
できた時期	運針	中1	小5	小5	小5	小6	高2	小5	小5	中1	中3	中2	小5	中1	中1	1.8学年
	ミシン縫	小5	中1	小6	小6	小5	小5	中1	小5	中1	小5	小5	小5	中1	小6	0.9学年

第2表-3 縫製の基礎知識に関する対象者一覧

内容	対象者	対象者													配点	平均値	標準偏差
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M			
布に対する糸、針の関係		0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	10	20	1.5	3.6
洋服の部位名称		30	23	20	32	25	27	15	28	28	30	25	30	13	40	25.0	5.7
裁断時の知識		18	38	30	8	4	8	4	32	32	14	30	32	20	40	20.7	11.7
得点		48	61	50	40	29	35	19	60	60	54	55	62	43	100	47.7	13.2

アンケートⅠの結果を表2-1からみると、縫製教材内容は小学校では基礎的技術と小物類、中学校・高校では日常着と休養着である。

縫製教材数を学校種別にみると、小学校では、ふくろが最も多く、ついでボタン・スナップつけであり、カバー類である。少ない人で2点、多い人で7点、平均的に3点である。

中学校ではパジャマ、スカート、ワンピース、ブラウス（袖つけか、袖なしのいづれか）の4教材で、上衣、下衣のいずれも製作されている。縫製教材内容としては最も充実しており、パジャマスカート等は90%の製作率である。

高校では縫製教材数が最も少なく、1つだけというのが大半をしめ、作っていない人が25%もいる。この時期が小・中・高校を通じて陥没しており、断層となっているので考慮する必要があると思われる。高校の縫製教材として和服長着を作った人が25%おり、手縫いの基礎を定着させる上ではよい教材である。

縫製教材の平均数をみると小学校で3.3点、中学校で3.1点、高校では0.8点、小・中・高校を通して7.2点であった。標準偏差値は小学校が最も大きい結果であった。

アンケートⅡの結果を表2-2に記した。5段階で評価し、最もよいものを5とし、全くできないものを1とした。

縫製の基礎技術は低いレベルの1～3に渡っている。縫製の実態と合せてみると、低レベルの自己評価をしている人は家人に手伝ってもらって完成している。

運針のできた時期をみると小学校で75%、残りは中学校や高校となっている。個人差が大である。本来なら初期に充分習熟させることが望ましいことで、作品の出来具合や縫製の速度を決定づける要因がここにあると考察される。小学校段階で徹底した指導をしなければならない。今後の課題であると思われる。

アンケートのⅢ、ミシン縫いについても表2-

2に記した。手縫いよりも高い自己評価の3～4の段階である。洋風化傾向の表われと見ることが出来よう。しかし、洋裁の仮縫いには手縫いが必要であるので、ミシン縫いだけでは片手落ちである。両者は車の車輪のようでなければならない。ミシン習熟の期間は短期間となっている。製作学習を能率化する上からも「自由にできる」ところまで訓練する必要がある。またこのことは製作への意欲を喚起し、興味を持続させ、物を作る喜びを味わわせる原動力となるものと思われる。

アンケートⅣ、Ⅴ、Ⅵの縫製の基礎知識については、個人毎の一覧表としてその得点を表2-3に記した。まずⅣのアンケートについて4種類の布について糸と針の関係が理解されていると5点とし4種類なので20点を配点した。

結果をみると、殆どが無答であった。縫製をおこなう場合、布の性質と針、糸の関係を考慮することが基礎的なことである。見落すことなく、明確に把握できるよう指導することが、また課題であらう。

アンケートのⅤ、洋服のおもな部位の名称についての知識をみた結果、得点は平均値が25点で60%の出来であった。標準偏差も大きくなく、一般的傾向と思われる。

アンケートのⅥ、裁断時の知識についての結果は得点の平均値が約21点で50%の出来であるが、標準偏差は11.7と大きい。裁断時の知識について、さらに理解度を検討し、表3として記した。

第3表 裁断に必要な知識の実態

内容 洋服の部位	内容			
	布目方向	部位名称	縫代のつけ方	縫代の分量
袖	76.9%	100%	46.1%	23.1%
衿	46.2	92.3	46.1	46.2
カフス	23.1	53.8	46.1	30.8
身頃	61.5	84.6	53.8	38.5
スカート	61.5	69.2	38.5	15.4

表3によって解答結果を分析的にみると、衿とカフスの布目方向が間違い易いこと。名称については袖口部分につくカフス、スカートの名称のわからなかった人が多い。

縫代のつけ方、縫代の分量等わかっていないものが多い。

何れも、製作済みの教材であるのに、何故なの

だろうか。

#### B) 実技テストについて

手縫いによるファスナーつけと、袖つけの実習をテストした結果の評価項目と配点を一覧表として表4に記した。

第4表 実技テスト結果の一覧

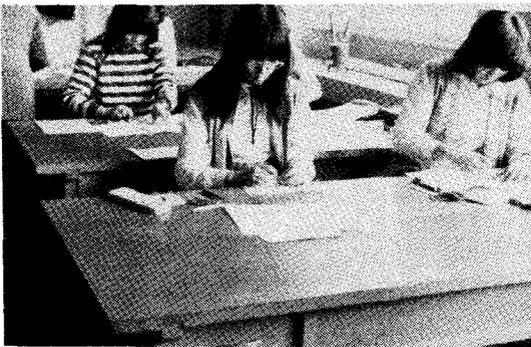
内容		対象者													平均値	標準偏差	配点
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M			
ファスナーつけ	裁ち目かがり	5	5	3	3	0	3	2	5	3	5	1	0	2.5	2.9	1.7	5
	本返しぬい	5	5	5	5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0	5	2.5	3.2	1.5	5
	半返しぬい	5	5	5	5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	0	5	2.5	0	3.1	1.7	5
	千鳥がけ	5	2.5	0	0	5	2.5	1	1	0	0	0	0	0	1.3	1.8	5
	全体のできばえ	5	0	2.5	2.5	2.5	2.5	5	0	0	0	0	2.5	0	1.7	1.8	5
	合計	25.0	17.5	15.5	15.5	12.5	13.0	13.0	11.0	8.0	7.5	6.0	10.0	5.0	12.3	5.2	25
袖つけ	型紙えらび	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0	0	5
	左右の判断	0	5	5	5	5	0	0	5	5	5	5	5	5	3.8	2.1	5
	いせこみ	15	8	3	7	5	0	0	0	13	0	0	0	0	3.9	5.1	15
	袖つけ	2	5	3	4	3	0	3	5	3	5	4	4	4	3.5	1.3	5
	早さ	3	5	5	5	5	0	2	3	3	5	4	5	5	3.8	1.5	5
	全体的なできばえ	2	3	3	2	2	1	2	2	4	3	4	2	3	2.5	0.8	5
合計	27	31	24	28	25	6	12	20	33	23	22	21	22	22.6	7.0	40	
総計	52.0	48.5	39.5	43.5	37.5	19.0	25.0	31.0	41.0	30.5	28.0	31.0	27.0	34.9	9.3	65	

ファスナーつけは中学校・高校で既習のものである。総合的にみると約50%のできである。

出来ている内容は、日常着として望ましい袖山

の高さを選ぶこと。

出来ていない内容は、千鳥がけである。袖つけでは、袖山のいせこみのできていないものが多い。



第2図 実技テスト開始



第3図 ファスナーつけ



第4図 袖の裁断

この写真は実技テストの状況がよくわかるように撮ったものである。

第2図 実技テストの開始時。

第3図 ファスナーつけ。

第4図 袖の型紙を切り取り、布を裁断しているところ。

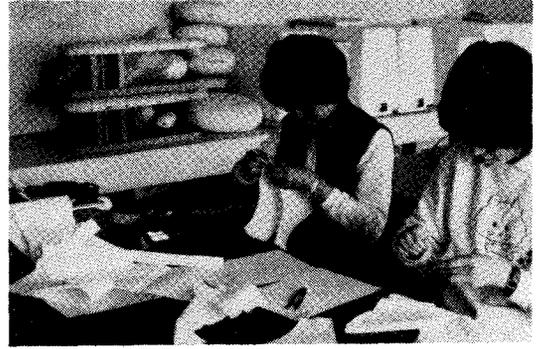
第5図 袖山のいせこみをしているところである。

縫い方の要領、はさみの使い方、指貫が机上に点在于して使用しないこと、机上の整理への心くばりを知ることができる。

この実技テストは、10年前にも行ったものであるので同様な評価により、比較した。平均値の差の検定をした結果、ファスナーつけでは本返し、半返し、裁ち目かがりに差は見られなかった。千鳥がけに5%水準で有意差が認められた。(完成した割合は48年44.4%、57年は15.4%であった。

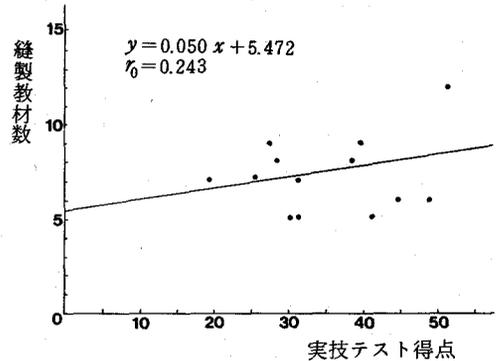
袖つけについては型紙の選択、左右の判断の違いの項目では10年前と比較して差は少ない。いせこみの完成した割合は100% (48年)、30.8% (57年) で平均値間に1%水準で差が認められた。同様に袖つけの完成割合88.9% (48年)、77.0% (57%)、全体の出来ばえのよかった割合88.9% (48年)、46.2% (57年) と共に、平均値間に1%水準で差が認められた。技能面における低下と言えるものと思われる。

製作数と縫製に関する知識は、密接な関係のあることが慣習として言われている。縫製作品数と



第5図 袖山いせこみの縫製

実技テスト結果の相関分布を6図に図示する。



第6図 既習製作数と実技得点の相関分布図

相関係数は0.243、回帰係数は $y=0.050x+5.472$ であったので図に回帰直線を記入した。

相関係数の検定では40%で有意と認められた。大きな相関が必ずしもあるとは言い得ないようである。

### 3. ま と め

家政科に希望入学した学生の被服縫製関係の知識・技能の低くなってきているように思われることの原因を探り、大学における被服縫製に役立てる目的で既習の縫製について調査し、簡単な基礎的知識の含まれる実技テストをおこなった結果についてまとめると次のことが言える。

1. 小・中・高校の縫製学習教材には学校差があるため、個人的にも差が大きい。

2. 縫製技術の習熟度も低い。10年前と比較した実技テストの結果からみても劣っていることが明らかである。

3. 縫製の基礎知識である布、針、糸の関係については、皆無に近い状態であった。

4. 裁断の理解度については、縫代や分量のつけ方についてわかっていない人が多かった。

5. 学校種別による縫製教材は中学校が充実しているのに、高校において落ち込んでいる。殆ど義務教育化傾向にある高校の実状からすると、中学・高校と一貫した学習指導計画が考慮されなければならないのではないかと思われる。

以上のような結果であるので、縫製に関する技術向上への配慮をおこない、縫製に関する知識で皆無に近い状態にある要素については、学習の初期に徹底した指導ができるようにして、力をつけたいものと思っている。

最後に御協力を賜った本学の卒業生の鈴木由美子、学生諸姉に謝意を表する。

注1. 日本家庭科教育学会誌 Vol. 18, No. 1。

## 参 考 文 献

- 1) 日本家庭科教育学会誌 Vol. 18, No. 1, No. 2 (1976)。
- 2) 統計的実験計画法 三平和雄編 (1970)。

キーワード：家政科教育，大学1年生，縫製技能，アンケート調査